

ら、中国の一部の人達のナフサや化石燃料からの水素製造やその利用系などの現システムの紹介まで幅広いスペクトルがみられたことである。概して高度のもの比重が高まっていた。

会議の内容は Hydrogen Energy Progress Vol.1～Vol.3 (1,432頁)として Pergamon Press より出版されている。

なお、21日の開会式の後ホテル Bristol で理事会が開かれ、第7回は MOSCOW で1988年5月30日～6月5日の間開催されることがソ連の科学アカデミー会員として参加した。M. A. Styrikovich から提案されたが、この5月末はまだ西側諸国は休暇期に入っておらず、筆者の発言でソ連側も再考を約束した。

1990年の第8回は Honolulu, 1992年の第9回は Paris が有力である。このような、WHEC 誘致の過熱振りに戸惑いを覚えた。

第8期・後期(1987年度)から会長を古浜庄一副会長に引継ぐことになった。太田も HESS の創立以来、幹事長、副会長、会長(第6期、第7期、第8期・前期の計5年間)と水素エネルギーという人類初のエネルギー概念の普及に努力してきたが、横浜国立大学の工学部長の仕事が大学改革の折、きわめて重要なポイントにさしかかり、手が抜けず、眼が離せない状況になったため、事務局とともに古浜氏へバトンタッチすることにした。

新しい技術体系が一般に普及し、容認されていくには、その概念や理念を普及する努力が、もっとも必要である。体系の要素技術が先行しすぎても道は拓けず、また概念の普及だけでも体系の実現は宙に浮く。

今後とも IAHE と協調し、HESS はその個性を若々しく活かしつつ、水素エネルギー・システム実現の目標のため進みたいものである。

(3) 水素生産に関する一考察

個人会員 市川 弘

私は、水素エネルギー協会編「水素エネルギー読本」を読んで感銘を受け、個人会員に志願した者です。石油資源の枯渇が現実のものとなってきた今、次のエネルギーは水素エネルギーが主役と信じます。しかし、水素の生産、貯蔵、運搬など多くの問題があり、世界中がそれらの問題解決に向けて、研究開発に努力している現状だと思えます。21世紀には、ガソリンスタンドに替って「水素スタンド」が登場すると信じます。

水素の生産に関する一つのアイデアを述べます。それは、水素生産のためのモデル基地と各基地から運搬してきたと想定しての、モデル集合貯蔵基地の二つの基地の建設であります。それらのモデ

ル基地でのテストを通じて、水素利用の実用化がはずみがつくものと思います。

モデル基地の一つとして考えられるものは、河川の小規模発電所です。この電力で生産するのです。全国各地に河川があり、梅雨、雪どけ時等多くの位置エネルギーがたくわえられます。それぞれの河川や場所に適した水車を利用して発電を行い、基地とします。私も低落差の水車の研究にそれなりの成果を得ていますが、その発表は次の機会にいたします。

以上、私の水素生産に関する考えを述べてみました。